

区民会議・企画部会（第3回） 摘録

日 時 平成19年1月16日（火） 14時～時
場 所 宮前区役所第4会議室
出席者 小林委員長、永野副委員長、目代委員、渡辺委員、浅野委員、鈴木恵子委員
事務局 原企画調整担当主幹、中山同主査、東同主査、成沢職員

開会

事務局より事務連絡

- ・ 情報公開について
- ・ 本日は昨年12月開催の第3回区民会議の内容を受け、区長報告の為の報告書について、事務局作成の叩き台案を元に確認・ご議論をお願いしたい。

議事

1) 区民会議審議結果の報告について

事務局案の説明

- ・ 事務局より、事務局作成の報告書の叩き台案の説明があった。
- ・ 別紙のように全体の構成（掲載順）を変更し、まず提案（具体的な解決策）を前にもってくるようにしたい。それを踏まえてご議論をいただきたい。

意見交換

小林委員長：今後22日に高齢者福祉、24日に明日のコミュニティ、29日に子ども部会が予定されている。企画部会として、報告書のまとめ方について、ご議論をいただきたい。

事務局：企画部会の皆さんの了承が得られれば、19日にこの報告書を元に区長に報告をしたい。字句の修正なども、明日行いたい。

1) 高齢者福祉部会のまとめ方について

小林委員長：現状や課題の技術についてはどうか？

鈴木部会長・永野部会員：部会で話し合ったとおりのことがまとめられている。良いと思う。

小林委員長：解決策についてはどうか。もっと具体的でもよいかと個人的には思うが、

鈴木部会長：固有名詞を掲載するという事か？それは現段階ではどうかと思う。

浅野委員：モデル実施を行うとあるが、これはどこか地域をイメージしているのか？

小林委員長：もうできている地域はある。

浅野委員：できている地域で考えているということか？

永野委員：本会議で出た、民生委員の下に福祉委員を二人ずつつけるという提案についてはどうか？

鈴木部会長：全国大会などで様々な報告を聞いているが、福祉委員は、実はあまりうまくいっていない地域が多い。福祉委員の研修にも参加したが、町内会の役員等がそのまま選ばれているとうまくいかないケースが多いようだ。宮前独自の新しい形をつくるなら良いと思う。

浅野委員：資格など何かあったほうが良いのではないか。

永野部会員：養成研修のような制度が必要だろう。ただ町会に「選んでくれ」だけではだめだ。

目代委員：やはり人材の育成、養成が難しい。福祉委員がうまくいっている地域は、民生委員と一緒に勉強会などを開いている。交通費などが支給される場合もある。社協が人選している地域もあると聞いた。地域の実情に合わせて、きちんとした運営がなされていくことが重要だ。

小林委員長：成年後見人制度の養成講座などと合わせ、福祉委員を選んでいくという方法もある。

鈴木部会長：いろいろなところから福祉委員が選出されれば非常に良いが、なかなか手がないのが現状だ。制度としてちゃんとした仕組みを提案することになるのではないか。

渡辺委員：民生委員の推薦は自治会で行っているが、最も適切な人を選んでいく。福祉員の場合も自治

会の役員に固執する必要はない。

浅野委員：福祉員という肩書きをつかわないほうがいいのではないか。福祉員＝リーダーというイメージを私は持っていない。あくまで民生委員のサポート役だ。

鈴木部会長：委員とか、役職をつけると、実働ではなく、あてがわれた役職になってしまいがちだ。そうではなくて、地域の中で、世話焼きさんをどうやってみつけていくかということだ。

事務局：第3回の区民会議の中で、実際に地域で担っていく人材についての議論がかなり出た。誰が主体として動くのかということは、目代委員から福祉委員の話が出た段階で終わっているのだから、ここで企画委員だけで、報告書の内容に新たな提案を加えることはできない。

成年後見人制度については今後の課題となっているので、担い手については、第4回以降でまた議論していただいても良い。特に福祉員は制度化しなくてはいけない部分もあり、簡単ではないだろう。今後、議論いただくのがいいのではないか。

鈴木部会長：2月2日にすこやか活動の研修会が5団体合同で開催される。地域の掘り起こしというテーマで地域の危ない人を把握して助けていく。今年で6回目の開催であり、宮前区だけで180人くらい集まる。担い手もたくさんいる。

事務局：19日の区長報告の後には、区も提案実現への動きを考えていくが、区民会議の委員さんにも協力お願いしていくことになるだろう。例えば、今紹介されたような2月2日の研修会など様々な場で、区民会議の提案を説明し、協力を呼びかけていくような形にしたい。報告書の概要版をつくることも考えている。

鈴木部会長：ダイヤモンドクラブが、市のすこやか活動の計画の中で特色ある活動として紹介された。

小林委員長：具体的にわかりにくい部分があるので、すこやかの例を活動事例として入れられないか？

事務局：市の事業でもあるので、記述する事に特に問題はないと思う。

永野委員：担い手の部分を今後やっていくということだが、既存のリーダーをうまく取り込んでいくということと、人つなぎのしくみ、この二つをきちんとやりたい。

小林委員長：提案2の「地域ぐるみの散歩」については、2月12日に開催される平瀬川の活動の案内が昨日きていた。(別紙配布資料参照)区民会議の松井委員なども関わっている。現在ある活動が広がってゆけばいいのではないか。

鈴木部会長：高齢者支援課に行けば、いろんな公園で行われている体操グループの場所などの地図がある。この地図にこれからやって欲しい場所を加えてマークすると良い。また部会では83運動についても意見が出たが、野川の地域教育会議が現在83運動に取り組んでいる。

浅野委員：例えば公園をどうやって使ったらいいのか、すぐわからない。誰が管理しているのか？誰に許可を求めたらいいのか？など、どこに声をかけたらいいのかも書かれていると良い。

小林委員長：3月17日にも散歩がある。各地区でやることも考えると、具体例がもう少しあると良いように思うがどうか。その方が“やってみよう”と思う人も出てくるのではないか。

渡辺委員：イベントとしてではなく、日常的なものとしてやっていくことが大切だ。

鈴木部会長：健康管理もかねて、歩き方の講習などもたまにあたりする。

浅野委員：季節の見所紹介など、みんながある場所に集まって何かするようなものと、散歩は別に考えた方がよいのではないか。また83運動のように、健康のために歩くだけではなく、地域の子どもの見守りのためになど何か目的を持って、自分が他の人の役に立っているという形が必要だ。

事務局：今の話のような、具体的な実現策の部分は、今回の報告書に入れる部分では無いのではないか。具体例をいれると、それを拡充すれば良いということになってしまい、あまり積極的と言えないのではないか。イメージの為に他の広報で紹介するのなら良いが、報告書に具体例を入れるのはどうか。

浅野委員：グループの立ち上げ数などを数値目標として示してはどうか。

事務局：その辺りも企画部会ではなく、全体会で話し合っていたきたい。

永野部会員：区長への提案の段階としてはこれでいいのではないか。

小林委員長：あくまで参考例としてあげる。どういうことをイメージして提案しているのか、ある程度理解してもらえないと、あまりに抽象的になってしまうのではないか。

鈴木部会長：体操のマップなど現在ある資料を少し加えればいいのではないか。

事務局：本文中ではなく、イメージさせる為の参考資料としてなら、入れることはできるだろう。

小林委員長：出前講座、学校給食体験についてはどうか。

特に意見なし。

小林委員長：高齢者を見守る会議についてはどうか。

鈴木部会長：子育ての組織と同じ提案になるのではないか。

目代委員：ここがベースとなって子育てもできたらいいと思う。

渡辺委員：地域包括支援センター（区内 5 箇所）では地域の範囲が大きい。窓口を明確化してほしい。

鈴木部会長：野川ではいくつかの協議会が動きだそうとしているが、その際、地域が大きすぎるので自分達で 3 地域に分けた。この会議がそのまま包括の運営協議会にもなる予定である。馬絹地域と宮崎地域に関しては、場所が離れており、別括りにした。鷲ヶ峰も非常に細長い地域であり、一括でやるのは難しいので、おそらく町内会くらいのエリアでまとまりをつくっていくことになるだろう。

小林委員長：以上で高齢者部会については、議論を終わりとしたい。今日出た意見を踏まえ、多少修正して区長に提出ということで良いか。

一同了承。

2) 子ども部会のまとめ方について

小林委員長：現状や課題についてはどうか。何かあるか？

目代部会長：大体良いと思う。

小林委員長：提案の記述についてはどうか。

目代部会長：情報発信については、もう少し具体的な方法や可能性を加筆できないか。例えば、アンケートの方法など。ネットワーク形成の提案がうまく実現すれば、そこに参加している人たちが健診時の情報発信にも関わるような形になるのが理想だ。

事務局：それはネットワークの組織の役割として情報発信をあらかじめ決めておくということか。

目代部会長：報告書で区長に提案した後、それに対して区で「やる／やらない」などの形で回答があるのか？あまり役割として決めてしまわずに自主的に今後地域から出てくる方が良い施策もある。

事務局：子どもについては 9 つの提案がされているが、それぞれ、行政がやるかやらないかの問題ではなく、行政が関われない部分もある。予算的な制約もある。方法論を検討し、地域にお願いする部分も出てくるだろう。区民会議の委員さんから各団体に働きかけていただくこともあるだろうし、うまく協働につなげたい。様々な調整の中でひとつひとつ実現を目指していくことになるだろう。

鈴木委員：子育て中の母親の希望をかなえていくための提案であり、それを行政と「一緒にやろうよ」ということだと考えている。あんまり難しく考えると、がちがちで何もできなくなってしまう。地域の現場にいる人は子育ての取り組みへの義務感すでにお持ちだと思う。

浅野委員：どこに参加をお願いしていくのか、現状の取り組みにどんなプラスアルファあるのか。その辺りのイメージまで踏まえて提案したほうがよいのではないか。

鈴木委員：実際地域が担っていく部分は多いだろう。ただあんまり書きすぎると縛りや固まりができてしまうので、書きすぎないほうが良いだろう。

小林委員長：町内会を利用した情報の発信についてはどうか？子育てグループが発行している様々な情報などを選別する必要はあるのか？

目代部会長：町会の回覧は量が多いので、流す情報を選別している現状はある。

事務局：10 の子育てグループが発信している 10 の情報を 10 のままで回すのではなく、地域に必要な形にまとめていくことが必要だろう。各グループの方々に納得して関わってもらうことも重要だ。

目代部会長：わたしの地域では町会の情報、学校の情報が優先されている。

渡辺委員：わたしの地域では子育ての情報もなんでも回している。

永野委員：グループに入っていない人、関心をもっていない人に情報を伝え、サポーターになってもらうことが重要であり、そのために町会の回覧も活用するということ。

目代部会長：これまでは子育てという文字が回覧に載ることは少なかった。ここが変わるだけでも効果はあるだろう。

浅野委員：子ども会などの情報は町会を通じて入ることもある。転入してきて、町内会にも入っていない人たちは回覧を見る機会もない。町内会の掲示板の利用なども考えてはどうか。掲示板なら町会に入っていない方も見る機会があるだろう。

鈴木委員：ホームページなどを立ち上げて、うまく利用している世代やグループもある。いろいろなメディアや方法で子育ての情報を発信するという。何を使っても良い。

永野委員：記述を「町内会自治会など」としてはどうか。（“など”を加える）

小林委員長：その他の提案についてはどうか。

浅野委員：公立保育園などの利用については、施設側が利用させていないというより、活動グループの話の持っていく方が上手でない部分もある。もうちょっとうまくフォローができれば良い。

目代部会長：こういった形で報告書に明文化されることで、地域や施設側の認識も変わることを期待したい。これまではなかなか相手にされない部分もあった。

園庭開放は宮前区内では週1回である他区では週2回やっている所も多い。また、施設を開放するだけでなく、そこで相談や指導教育の場を設けることを合わせてやってほしい。

浅野委員：その意味では場の提供と情報の提供が重なってくる。提案3と提案6は同じ公立保育園が場であるので、記述をつなげ、提案の順番も入れ替えてはどうか。

目代部会長：提案7の「地域による公園管理の促進」は、提案8の「子育て関連支援組織による協議会（ネットワーク）の立上げと運営」が実現した時に、ぜひそこで取り組みたい事の一つである。

小林委員長：このネットワーク組織は、高齢者福祉部会の提案5「地域で高齢者を見守る会議の設置」とかなり共通する部分があるのではないかと。別々につくるのか、一緒にするのか。

永野委員：構成メンバーも共通する部分があるだろうが、それぞれ目的を明確にするためにも一括にしないほうが良いのではないかと。

鈴木委員：子育て支援のネットワークはモデル的にできているところはあるのか？

目代部会長：通称「子支連」という宮前区の子育て関係者が集まった連絡会はある。保健士や民生委員の代表、社協、自主グループの代表などが集まっている。ただこれが担い手の団体になっているかという点、まだそこまではしていない。

鈴木委員：すこやか活動と同じ様なものを、子育てに関してもつくりたいという声は以前からある。

目代部会長：区内の子育てネットワークで最も古いものでは、カンガルーネットワークがあり、カンガルーネットワーク通信を発行したり、子育て広場の運営を行っている。他には幼稚園に通わずに、公園などで母親が自分達で保育をしている自主保育グループがある。その他、5、6人規模の団体は区内にたくさんある。検診時などに出会って仲良くなって、グループを結成しているようだ。ただ、町会や地元と連携してということをやっているところは宮前区内にはまだない。

小林委員長：明日のコミュニティ部会の検討とも、関わりが深い。

永野委員：地域から主体的につくることは大事だが、実際には子育てグループが忙しくてなかなか入ってこない。有馬地域では子ども文化センターの運営協議会が地元参加で組織されているが、そこで技能者として子育てグループや、町会や社協などが関わっており、うまく機能しかかっている。

鈴木委員：サポートを意識し、いつもある場所にいけば、どこかのグループに会えるというような核になるネットワークが必要だ。母親達がいくら動いて、グループがたくさんできても、核となるネットワークができなくてはならない。

小林委員長：以上で多少の字句の修正等は別として、概ね内容を承認いただいたということで良いか？
一同了承

3) 区長報告の進め方

- ・字句等の細かい修正、提案が前にくるよる構成の変更を行う。
- ・19日（金）の午前中に区長への提出・報告を行う。
- ・正副委員長と高齢者福祉部会長、子ども部会長で参加できる方は同席。9時に区役所集合

2) その他

- ・1月30日（金）午後2時より、次回の企画部会を行い、区民会議の今後などについて検討する。
- ・高齢者福祉部会は今年度の残りの期間で、成年後見制度、担い手などについて、検討を行えば部会としての役割は終える目処が立っている。
- ・子ども部会は、今回検討対象を乳幼児に絞ったので、学齢期の問題やいじめや健全育成など、いくつか未検討の課題があり、部会としてどうしていくか検討が必要だ。
- ・最初に整理した146の課題を元に、それに新たな課題などもあれば加えながら、今後も区民会議としての検討を進めていく。

（以上）